

てびねり

八月号 平成22年8月1日発行
株式会社ゆしま陶助

法隆寺宝物館

場所 東京上野国立博物館内

明治11年(1878年)に奈良の法隆寺から皇室に献納された宝物がここに収納されており、常設の展示場としていつでも見ることが出来ます。出土した遺物ではなく、9割以上が重要文化財の「仏像」など7世紀のころの古代の美術品が中心です。

ちなみに有名な「正倉院」の宝物は少し後の八世紀の美術品が中心だそうです。

仏像はそれぞれ違った仏師が作ったもので、中には高麗から来た仏像もあります。

場所は国立博物館の左側の奥まったところにひっそりと建っている感じで目立ちませんが、建物(写真左上)自体はニューヨークのAなどを手掛けた谷口吉生設計で、おしゃれな空間設計で有名な建物です。

写真右…モダンな法隆寺宝物館正面入口
写真左…仏像の展示場
写真下…博物館案内図 (東京国立博物館HP参照)



◆今月の制作風景

□木谷光伸さん
ロクロで組小皿を制作中ですが形を揃えるのに努力中です。



□対尾景子さん
立って削らないといけないほど大きな植木鉢カバーです。



□宇都宮裕さん
むずかしい口作りに挑戦中!



□中村雅志さん
湯呑をロクロで作っています。



□菅原淑子さん
大きな鉢カバーです。



□高木照さん
お抹茶碗を慎重にけずり、形を整えています。



□奥村千恵子さん
花器に釉掛け。霧吹きでムラなく吹き付けをしています。



□金子裕子さん
長皿に高台を付ける作業中。



□野口華栄さん
釉薬掛けの前に入念に形を整えています。



□地下の窯を見学
左から 小林和彦さん
木村紀子さん
吉川富美子さん



□小畑明子さん
小鉢が大分薄くなりました。



□石松瑞枝さん
植木鉢、もうひと削り頑張ってます。



□親子陶芸 特集

右から 鶴田美菜子さん
鶴田雛乃ちゃん(8歳)



右から 眞島都夏ちゃん(8歳)
眞島英里さん
眞島歩寧ちゃん(11歳)



山本莉菜さん(15才) 山本清美さん
山本遥ちゃん(10歳)



今月の作品

□菅野満雄さん 「マグカップ」



白マットを掛けたあと、トルコ釉ルリイラボを筆で塗り酸化と還元で焼きました。モダンですね。

□中河政子さん

角材を使って表面に凹凸をつけ、弁柄を塗ったあと、ルリイラボを掛けたとても渋い焼き上がりの作品です。



□佐々由佳さん 「そば猪口」



5個のそば猪口に辰砂を掛け、酸化焼成と還元焼成と二通りの焼き方をした作品ですが、焼き方でこのように見事に仕上がりが違ってきます。

□宮崎誠仁さん 「煎茶碗」



シンプルな粉引の煎茶碗です。大きさも、形も丁度よい出来上がりです。シンプルほど難しいのですが、流石です。



□上原由美子さん 「八角皿」

みことな八角皿です。細かな図柄もバランスよく仕上げ、初めての染付とは思えません。

□山本美津子さん 「花器」

黒化粧と白化粧で、古木の感じが良く出ています。大きな作品です。枝ものなどを生けたら見事でしょうね。



□知久真理子さん 「ふた物」



黒化粧した後に線彫りをした小さなふた物ですが、写真は実物より少し大きくなっています。



□平石規代さん 「八角皿」

線象嵌をした呉須の皿ですが、このような素敵なお皿になるまでには、とても細かな作業が続きました。

□近藤律子さん 「組小鉢」



白マット釉を掛け、一方からトルコ釉を吹き付け還元焼成しました。形の良いすてきな組小鉢です。トルコ釉で出る、ほのかなピンクがきれいです。

□石田純子さん 「墮円皿」



細いテープでマスキングをして、黄瀬戸釉を掛けたおしゃれな作品です。



□小宮昌子さん 「平鉢」

唐津風の鉄絵がバランスよく入った作品です。皿立てを使えば飾り皿としてもステキですね。



□吉川睦子さん 「皿」

釉薬掛けに時間を掛けた作品。弁カラで線を、ルリ釉で花を、その上に撥水剤を塗り全体に白マットを掛けました。

□石松瑞枝さん 「香炉」



志野釉とビードロを掛けたアロマやお香を入れる香炉です。内側はトルコ釉を掛けています。

□金子裕子さん 「洋鉢」

赤土を象嵌した洋風の深鉢。黄瀬戸の色と形がマッチした作品です。



□柿沼ひろみさん 「湯呑」



白マットと黒マットを掛け分けた作品です。外の黒マットは吹き付けにしてザラっとした感じを出しました。

見た事・聞いた事・読んだ事

不忍池からの東京スカイツリー400メートルを超えました。



不忍池からの東京スカイツリーの雄姿。(8月4日撮影) 東京タワーを超え400メートルを突破しました。完成時には634メートルですから後230メートル伸びます。左の写真は7月31日(土)隅田川花火大会の一コマ。

花火写真：7月31日 台東区越田吾吾氏撮影

浅草《浅草寺》の屋根瓦がチタン瓦に衣替え!

浅草寺宝蔵門の屋根面積約一千平方メートルの本瓦(陶器)が最新のチタン瓦にふき替えられました。見た目にはまったく違いがわかりませんが、今までの本瓦は重さが60kgもあったものが、チタン瓦を使用すると5分の1まで軽量化され、腐食やさびを避け、耐久力は半永久的というので、科学の進歩には驚くばかりです。



最近心配される大地震にもこの軽量化は威力を発揮しそうです。価格が本瓦の3倍ですが、今後は本堂や雷門もチタン瓦への置き替えを検討しているそうです。みなさんも《浅草寺》に行った時にはぜひ《宝蔵門》の最新の屋根瓦を見上げてみてください。(佐藤)